平成26年度
第1回江戸川区子ども・子育て応援会議
議　事　要　旨

日　　時　　平成26年5月20日（火）　午前10時から12時まで

場　　所　　グリーンパレス　千歳

【議事次第】

１　開　　会

２　議　　事

（１）報告事項

（２）「教育・保育」及び「地域子ども・子育て支援事業」の量の見込み

（３）その他

４　閉　　会

【配布資料】

平成26年度 第1回子ども・子育て応援会議　次第

資料１ 江戸川区子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール

資料２ 認定こども園の概要

資料３－１ 「教育・保育」、「地域子ども・子育て支援事業」の「量の見込み」（区全体・暫定値）

資料３－２ 「保育」の「量の見込み」（区域別・暫定値）

子ども・子育て関連３法の概要

広報えどがわ（５月２０日号）

なるほどBOOK

子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査報告書

平成26年度第1回江戸川区子ども・子育て応援会議　出欠状況

氏　　名	所属機関・役職名	出　欠
◎三輪　建二	お茶の水女子大学教授 江戸川総合人生大学子ども・子育て応援学科学科長	欠　席
田澤　　茂	江戸川区私立幼稚園協会会長	出　席
秋山　秀阿	江戸川区認可私立保育園園長会会長	出　席
清澤　好美	江戸川区立小学校長会副会長	出　席
林　　和夫	江戸川区立中学校長会副会長	代理出席
半田　直子	保育ママの会元会長	出　席
澤井　廣喜	江戸川区認証保育所連絡会共同代表	出　席
上松　憲一	共育プラザ館長会幹事・共育プラザ南小岩館長	出　席
○田中　稔家	江戸川区青少年育成地区委員長会会長	出　席
本間　英雄	江戸川区青少年委員会会長	出　席
山本　又三	青少年育成アドバイザー	出　席
平島美紀枝	江戸川区私立幼稚園協会PTA連合会会長	出　席
彦田　景子	江戸川区認可私立保育園保護者連絡協議会副理事長	代理出席
宇田川公一	江戸川区立小学校PTA連合協議会会長	出　席
関口　光治	江戸川区立中学校PTA連合協議会会長	出　席
大澤　　孝	江戸川区立幼稚園PTA連合会会長	出　席
山田　智子	江戸川区立保育園保護者代表	出　席
寺原　純子	保育ママ利用者代表	出　席
本田　由香	認証保育所利用者代表	出　席
平田　善信	東京商工会議所江戸川支部会長	出　席
宮城富美子	連合江戸川地区協議会	出　席
石部さよ子	民生・児童委員協議会　小松川第二地区副会長	出　席
内山　敏明	江戸川区医師会事務局庶務課長	代理出席
中島　　信	江戸川区歯科医師会専務理事	出　席
岩楯　松江	公募区民	欠　席
仁志川明美	公募区民	出　席
窪田　龍一	区議会議員	出　席
大西　洋平	区議会議員	出　席
松尾　広澄	健 康 部 長	出　席
柴田　靖弘	教育推進課長	出　席
髙原　伸文	子ども家庭部長	出　席

◎　委員長　　○副委員長

議事要旨

１　開会

（田中副委員長）　それでは、ただいまから平成26年度第１回目の江戸川区子ども・子育て応援会議を開催いたします。今、事務局から御報告がありましたように、三輪委員長が御欠席ということで、議事の進行をさせていただきます。皆さんの協力を得て、そして実のある会議にしたいと思います。御協力をよろしくお願いします。

それでは、委員の交代がありましたので、事務局よりお願いします。

～　事　務　局　よ　り　報　告　～

２　議事

（田中副委員長）　それでは、次第に沿って議事を進めていきたいと思います。

まずは事務局から報告事項についてお願いいたします。

（事　務　局）　事務局より資料１および資料２を使用して、策定スケジュールと認定こども園の概要について報告いたします。

また、待機児童の状況について、口頭で報告をさせていただきます。平成26年４月１日現在の待機児童数ですが、298名でございます。その内訳ですが、ゼロ歳児が32名、１歳児が211名、２歳児が55名、計298名でございます。昨年の４月１日現在が192名でしたので、106名の増加となっております。

広報えどがわ、なるほどBOOK、ニーズ調査報告書については資料をご確認いただければと思います。

～　事　務　局　よ　り　報　告　～

（田中副委員長）　報告事項について何か御質問がありましたらお願いします。

～　意　見　な　し　～

もし分からなかったら後でお聞きいただければと思います。

それでは、次に移らせていただきたいと思います。次第にあります教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて、事務局から説明をお願いいたします。

（事　務　局）　事務局より資料３－１および資料３－２、子ども・子育て関連３法の概要を使用して、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて説明をいたします。

～　事　務　局　よ　り　説　明　～

（田中副委員長）　それでは今説明のあった量の見込みについて意見交換をお願いします。

（澤 井 委 員）　資料３－１の３ページの時間外保育事業（延長保育）について、このデータは認証保育所も入っているのでしょうか。認可保育園のみ47園となっていますが、認証保育所は13時間保育ということになっているので、これは延長保育には含まれていないのでしょうか。

（事　務　局）　澤井委員のおっしゃるとおりで、こちらは認可保育園について記載しています。認証保育所自体が13時間ということになっていますので、そういう意味では、こちらのグラフの「現状」の部分を高くしてもいいのではないかと思うのですが、認証保育所は本体事業で実施していただいていると思っています。

（山 本 委 員）　資料３－１で、希望とか要望、要求に対して現状との差について、解決できる計画を立てているのでしょうか。

（事　務　局）　例えば今お話がありました量の見込みについて、いわゆるゼロ歳児を預けたいというニーズが平成27年度には約1,600人いまして、その差が680ということですが、これはあくまで、調査時点で子どもを預けて働きたいという、需要も含まれていると思います。実際にはお子さんを預ける時点で仕事を持っているかどうかなど、将来の不確定要素も含んでいますので、実際のニーズがどのくらいあるかということもこれから見極めていきたいと思っています。そういった要素を含んだ数値と御理解いただけたらと思います。

（平 田 委 員）　先ほどから小規模保育や家庭的保育と出ていますが、これは保育をされる方はいろいろな免許を持っているのですか。それとも、子育て経験のある母親ということで、子どもたちを預かっているのですか。

（事　務　局）　江戸川区の保育ママ制度では、保育士や幼稚園教諭、看護師等の資格を持っている方もいらっしゃいますが、中には子育て経験のある方というような資格のない方もいらっしゃいます。そういった方には、１カ月程度の認定研修を受けていただいています。これは資格がある方も一緒に受けていただくわけですが、その中には実習も含まれます。そのうえで区として認定しています。

(平 田 委 員)　この件につきまして、時々ゼロ歳児を預かって事故を起こしたということが出ていますよね。そういう点で、やはり専門的な教育を受けておられるかどうかということが大事で、特にゼロ歳児を預かるということになってきますと、相当神経を使わなくてはいけないと思います。

私は何年か前に、ゼロ歳児保育について多田区長と話をしました。正直な話をすれば、ゼロ歳児を預かるのは怖いと思っています。ゼロ歳児を預かるには、単に駅の近くで部屋を用意して子どもを預かるというような簡単な考え方ではなく、経験の豊富な方に預かってもらわないとだめだという話を私は区長に申し上げたことがあります。預かる側としても預ける側としても、こういったところが、ゼロ歳児、１歳児は怖いと思うので、慎重に対処してもらいたいという気がしています。

（事　務　局）　関連してですが、今、資格のお話を頂戴しましたが、資格なり研修を受けていればそれで良いかというと決してそうではなく、例えば江戸川区の保育ママですと、保育課の保育士の資格を持った職員が保育ママさんのお宅を巡回指導しています。また、今後新制度の中で位置づけられる小規模保育については、江戸川区が認可をすることになります。認可をするだけではなくて、

やはり定期的に施設にお伺いして規定どおりやっているかということも含めて指導していき、保育の質を担保していきたいと思っています。

（半 田 委 員）　私は保育ママをさせていただいて15年になります。幼稚園の免許と保育士の免許を持っています。私は（１回目の資格）幼稚園教諭の免許を取る時に独身で取っていますが、それで勤務した時と、その後（２回目に）38歳で大学へ行って保育士の免許を取って保育に当たった時とは全然違います。自分自身も子育てを３人してから38歳で大学へ行きましたが、独身の時の保育観と実際に自分が子どもを育てて、それからまた保育に当たるのでは全然違うものだなというのを肌身で感じました。近隣の保育ママで資格のない方もいますが、人格が一番、人的環境という資格以上のものがあると思います。江戸川区は二百数名の保育ママがいますが、研修もとても充実していますし、23区の中で江戸川区のみ、資格がなくても子育て経験があれば携われます。区が本当に真剣になって保育ママのお宅を巡回し、施設の中とか連絡ノートもきめ細く、全部チェックしてくださいます。また、保育ママ同士も地域で連携をとって、代替保育等もあります。子育て経験は本当に資格以上のものがあるのではと思いますし、また資格がないからいいのではなく、保育ママ自身も日々いろいろなことを勉強していかなければいけないというのを肌身で感じています。

ゼロ歳は未発達ですし、人様のお子さんで命を預かる大事なお仕事ですので、本当に日々勉強が必要だなというのを私自身も感じていますし、保育ママたちも力を合わせて頑張っていきたいと思っています。

（澤 井 委 員）　今、認証保育所では、６割以上が保育士、あと４割が保育従事者ですが、実際に子育て経験のある人もいます。そして江戸川区の監査というのはかなり厳しいです。大体毎月見回りがあります。

もう一つ、正規の保育士不足という大きな問題がございます。将来40万人の保育をしようという国の方針があります。それに沿って制度が新しくなるわけですが、それに伴う保育士は全然足りません。８万人ぐらい足りないという話です。今、保育士の試験というのは年１回ですが、その１回の試験でなかなか受からない場合もあります。二、三十年前は保育士の試験というのは各都道府県がいろいろな形で実施し、何回も受けることができました。今の年１回の試験では保育士の誕生が少なくなります。試験の制度は都道府県の知事が権限を持っています。ですから、ぜひ江戸川区からも一つ提案をしていただいて、試験を２度、３度とやれば、しっかりした保育士も増えるのではと思います。そのような制度を考えて、いかに保育士を増やすか、皆さんの提言をぜひお願いしたいと思います。

（秋 山 委 員）　私立認可保育園の園長会の会長の秋山と申しますが、公立では実施していませんが、私立ではゼロ歳児を古くからお預かりしています。保育園の場合はもちろん資格のある保育士、それから人数によっては看護師もいますが、しっかり見ています。また、保育ママの中には、ゼロ歳児保育を実施してい

る私立保育園へ見学に来たり、行事がある時は参加したりしている人もいます。これはもう何の仕事もそうだろうと思いますが、意欲的なところは、人によるかと思います。見る限りでは、近所ではいろいろなところで連携させていただいています。ゼロ歳児もこれだけ人数が多いですし、江戸川区のほうからゼロ歳児は私立保育園でやってくれということではないですが、ある程度それで進めさせていただいていると思います。これからゼロ歳児が増えてくるというのでしたら、ゼロ歳児の対応も考えていただければと思っています。

（田 澤 委 員）　幼稚園では皆さん御存じのように、３～５歳の園児をお預かりしていますが、今私立幼稚園の９割以上が預かり保育を実施しています。私どもは午後５時まで、長いところですと午後７時ごろまで預かっています。夏休みも毎日預かっている園があります。

今、私どもも新しい制度に向けて勉強会を何回かやっています。新制度に入るか入らないかと、今は各園がすごく頭を悩ませています。今このグラフを見ますと、ゼロ歳児、１歳、２歳の見込み量がどんどん上がっているのですが、３歳児以降は逆に減ってきています。江戸川区では去年の192人だった待機児童が今年は300人近くもいるといいます。待機児童の解消は江戸川区として進めていかなければならない問題で、私立幼稚園がどういうふうにかかわりができるか、まだはっきりした結論を申し上げられませんけれども、何らかの形でこの制度に協力していけたらなと思います。

それから、常々思っているのですが、この制度は何のための制度かと、働くお母さんが主になっていて、子どもたちが真ん中にいないような気がしています。日本では働く人手が足りなくなります。そうなると、お母さんたちに働いていただかないとやむを得ないですが、子どもは絶対真ん中だと、これは強く思います。

（寺 原 委 員）　今、秋山先生からいろいろな御意見をお伺いしましたが、私は保育ママ利用者のおばあちゃんをやりながら、保育園の事務長をしています。資格ですとか、そういうことを重点に置きますと、どうしても人数が足りないと思います。私は保育ママでお世話になりましたが、保育園で保育士も見ています。保育の資格を持っている人もいれば、資格のない人もいますが、比べてみても変わりはないといいますか、個人の考え方とか人間性が大きいと思います。確かに保育ママは、資格がない人もいますが、一生懸命やる方もたくさんいらっしゃいます。それから私立保育園との連携や南小岩の共育プラザなどとも連携をとっています。そういった連携がもっと持てればと思います。

私の孫は１歳で私立保育園に入りましたが、今まで温かい保育でお母さん同様に過ごしてきた保育ママのところから連れてこられたような、何が何だか分からないという様子でした。保育園の先生方も一生懸命子どもたちのことを考えてくださっていましたが、子どもを中心に考えるとしたら、何にもわからない世界にいきなり行くのです。小学校に行く時もそうですが、分断

するのではなくて、ゼロ歳児から連携したものにしてほしいと思います。そのためには資格のある方もない方も、保育ママや小規模保育施設などにも協力いただいて、そこから保育園、幼稚園、認定こども園などと連携ができればと思います。継続という流れができれば無理なく移れるのではと感じています。

（田中副委員長）　ゼロ歳児保育には大変なところが多々ありますが、とりあえず一つは待機児童をつくらないという量的充足、それからもう一つは質的なものをどう上げていくか、その二つになるかと思います。保育士や保育ママをどう育てていくか、指導者の育て方という部分につながっていくかと思います。

（澤 井 委 員）　一番の問題は子どもを中心に考えることです。子どもにとって、認証保育所、認可保育園、幼稚園であろうと、それから保育ママであろうと関係ないのです。子どもにとって、どこでも同じでなくてはなりません。

今の社会情勢をみると、働くお母さんは必要です。働いているお母さんたちの子育てについて、その視点も含めて議論できればと思います。

それと、もう一つは資格のことですが、江戸川区がいろいろな形で区独自の制度を考えていく中で、子どもの安全を担保していくことも大切だと思います。

（山 田 委 員）　ゼロ歳児については寺原委員がおっしゃっていたように、ゼロ歳から１歳、１歳から２歳と、ブツっと切れる印象を私も持っています。私は江戸川区で２人の子どもを育てていまして、上の子が10歳になります。保育ママは検討しましたが、ゼロ歳児をほかの方に預けるのはどうかと思い、何とか自分で工面をいたしました。お二人ぐらいにお話を伺って、預けたいと思える信頼のおける方がいましたが、ゼロ歳であるということで親族の中で何とかしました。

今までゼロ歳児保育が話題になっておりましたが、親にとっては１歳もゼロ歳の延長でまだまだ気がかりなことが多いものですから、ここで保育園などに移る１歳以上の保育の状況、ファミリー・サポート制度などについて経験を御紹介したいと思います。１歳になってから保育園に行きましたが、延長保育について、最初に保育園でいただいた説明と区の規定が違っていました。延長保育はいつでも申し込めますというお話でしたが、６月、７月頃に延長保育の申し込みを園にしたところ、空きがその年度にあればというお話で、翌年度からは10月、11月に申し込まないとだめですといった説明がありました。この資料でもありましたが、延長保育の待機児が多いとのことで、私も延長保育を申し込みましたが３月まで空きはありませんでした。そういった中でファミリー・サポートの方に、２年間で４名にお世話になりました。その時に不便だなと感じたことですが、保育ママは心配だったらいつでも来てもらっていいですよというお話がありましたが、ファミリー・サポートの方にはご自身にもお子さんがいらっしゃって、夕方に習い事などに通われていました。午後６時半から午後８時半まで、２時間ほどファミリー・サポー

トをお願いしていたのですが、ある日に午後８時15分に行ったらまだ夕飯を食べさせていないことがありまして、そういった時に誰に苦情を伝えればよいか分かりませんでした。

ファミリー・サポート制度は、基本は利用者とサポート側で話し合ってくださいということでしたが、そういったことが続くと困るなと感じています。また、ファミリー・サポートを利用していた時期は子どもが病気になり保育園を休むことが立て続いて、今度は病児保育を利用してくださいと言われました。そうなると、子どもが病気という状態の悪い時に、全然接していない方に預けなければならないという状態になり非常に不便でした。冬場になり、保育園で病気がはやると１カ月で２～３回かかってしまって、感染を考えると５日休んでくださいと言われました。いきなり明日から１週間休むというのは対応に困りました。

また、量の見込みについてですが、それぞれの項目で重複があるのかなといった印象があります。例えば、「延長保育を利用したいのですが、ただそれは毎日ではなく週に２回ぐらい、仕事が忙しい時期にと思っています。」という方もいるかと思います。おそらくアンケートでも時間外保育（延長保育）、ショートステイ、また、病児保育も利用したいといったように、「預かってほしい」というニーズ１つに対して対応策がいくつかあることによってニーズが重複してカウントされ、本当のニーズ量と見込み量とに開きが出てしまったように感じています。私は残業が多い月では100時間以上ですので、おそらく保育園の保育者の中でも少数派であると思いますが、それでもこの量は少し過大であるのかなと思います。

これらすべてのニーズに応えるのは非常に大変ですが、そのために質がないがしろにならないように、質のほうもケアをしていただければと思います。

（田中副委員長）　非常にいろいろなお話をいただきました。事務局から、この会議でこんな方向で進めたいといったことはありますか。

（事　務　局）　この会議では委員の方から幅広く意見をいただきまして、それを最終的には３月に取りまとめをして、子ども・子育て支援新制度の事業計画に反映させていきたいと考えています。９月に中間の取りまとめを行いますので、今いただいている御意見を計画に活かしていきたいと思っています。

（本 田 委 員）　この支援事業計画のスケジュールの中で、既存の施設に対する新制度への移行の意向確認というのはどういうことなのでしょうか。

（事　務　局）　子ども・子育て関連３法の概要という資料がありますが、例えば幼稚園が新しい制度、いわゆる施設型給付というものを受ける新制度に入っていくのか、それとも既存の現在と同じような私学助成とか就園奨励を受ける幼稚園でいくのか、そういった意向を確認するということでございます。それについては、国からどのくらいの給付が受けられるかといった公定価格がこれから正式に出ますので、それを受けて東京都の助成や区の助成など、そういったものを含めて価格を提示したいと考えています。

（本 田 委 員）　認証保育所が認可保育園に移行していくという話を聞いたことがありますが、私たちは今利用している園から追い出されてしまうということも考えられると思うのですが、どのような対応になっていますか。

（事　務　局）　認証保育所につきましては東京都の制度ですので、この新しい子ども・子育ての新制度の枠外ということになっています。例えば、今お話がありました認可保育園への移行というものを検討するという選択肢もあるのですが、認可保育園の場合は、江戸川区は待機児がいますので、利用調整ということでほかの保育園と同じように責任を持って対応させていただきたいと思います。

（本 田 委 員）　給付の対象になりますので、認証保育所を地方裁量型の認定こども園にしていただくという方向がいいかなと思っています。

それから、聞いた話ですが、認可だと３．３㎡に１人、認証だと２．５㎡に１人という決まりがあるようですが、認証を増やすことによって待機児童の減少にもつながっていくのかなというふうに思います。

（山 本 委 員）　青少年アドバイザーということで、ゼロ歳から三十何歳、定年と言われるところまで全国的レベルで活躍している組織の仕事をしています。

この会議の中で着目していただきたいところは資格のことです。保育士でも幼稚園教諭でも、資格があれば良いというのが、日本で一番悪い弊害になっていると思います。例えば、運転免許証があります。これは誰でも受けられます。何も知識がなくても、教習所へ行って交通法規や運転を習って免許を取ります。そして、５年間、優良運転手であればゴールド免許証をもらえます。運転しないで何もしないでいてもゴールド免許になるのです。資格とはそういうものだと思っています。例えば、教員免許なども、子育て経験などがない状況で学校を出て採用されていくと、子どもたちが騒ぐのを制御できないといった現状があります。

保育ママという江戸川区の制度はとても良い制度です。資格がない方でも子育てという経験をしたことのほうがずっと立派な資格だと思います。資格を第一に考えないようにしてもらいたいと思います。

（半 田 委 員）　子どもの政策をやっていく中で、私はずっと思っていることがあります。皆さんに自分の子ども時代を思い出していただけたらと思います。私は子どもが伸び伸び遊び、いたずらがいっぱいできたら、この日本はすごく強くなると思います。

私は保育ママを15年やりまして、その前の15年間は事業所内保育所で働いていました。リュックを背負って、お天気だと外でご飯を食べて外で製作をして、製作が終わったらまた外で遊ぶ。自分たちが子どもの時、どうやって育ったかというのをもう一度思い出して、この政策に取り組んでいきたいと思います。

また、保育にたずさわる先生のお給料にも差があると思います。今国では、准保育士といった話が出ているかと思います。認証保育所だから質が悪い、

公立だから質がいいとかではなく、どの保育士も一生懸命されていますので、保育士の待遇面も考えていただければと思います。

（澤 井 委 員）　認可保育園が良い、認証保育所や保育ママはどうかというお話、これはもう完全に間違った考え方であります。認証は自由性がありますのでいろいろなことができます。子どもに対して、いわゆる国で定められた以外のこともできると、ものすごく保護者から喜ばれています。ちなみに、ファミリー的な保育をされているのが保育ママだと思います。子どものためにどういうことをしているか、それを視点に物事を考えていきたいと思います。

（田中副委員長）　最後に子ども家庭部長に感想を伺えればと思います。

（子ども家庭部長）　本日はたくさんの御意見をありがとうございました。各委員の御意見を踏まえ、年度末までに計画をつくらせていただくことが、この応援会議開催の大きな目的でございます。制度自体は国が設計していますが、実際に事業を行っていくのは江戸川区ですので、計画策定に当たってはまず、江戸川区らしいものにしていきたいと思っているのが１点でございます。

その際には、各委員からお話が出ていたとおり、子ども中心、子どもの視点でということが全くもって大事なことだと思います。江戸川区も徐々に少子化という形になっていきますが、引き続き子どもたちが明るくにぎやかな地域づくりを目指して頑張っていきたいと思います。

それから、江戸川区の特徴ある施策として、保育ママのお話も出ましたが、昭和44年からやっていますから45年目というような、歴史のある仕組みもあります。また、幼稚園、認可保育園、認証保育所など、大きく私立に依存しながら幼児教育や保育を実施してきているといった特徴もございます。小学校に上がりますとすくすくスクール、中学生になりますとチャレンジ・ザ・ドリームなどもございます。地域の方々に御協力いただき、皆様のボランティア精神に基づいてやっていただいておりまして、こうした優れた江戸川区の特徴、地域特性というものも前提にしなければと思います。

今回の計画策定では、サービス量の確保について、目標値と現状とのギャップを向こう５年間でどのように埋めていくかというのが大きなテーマです。ただその中で量の拡充だけを目指して、質の確保の部分をおろそかにしてはいけないと、それはもう御意見をいただいているとおりです。新たなサービスの展開とあわせて、既存の事業やサービスの足りないところについては改善をしていく姿勢でいきたいと思います。

社会経済情勢のお話も出ていましたが、労働力不足に対応していくために、女性の就労や社会進出が求められています。ワーク・ライフ・バランス、仕事と家庭、子育てとの両立ができる環境が目指すところだと思います。引き続き皆様から御意見を頂戴しながら作業に取り組んでまいりたいと思います。

（田中副委員長）　最後に連絡事項を事務局からお願いします。

（事　務　局）　次回の会議は中間の取りまとめを見据えまして、９月に開催を予定しています。日程につきましてはまた決定次第、御案内をさせていただきます。委

員の皆様、本日はどうもお忙しい中ありがとうございました。

以　　上

事 務 局　　子ども家庭部子育て支援課